



あじさい

vol.44
2023

訪問診療はじめました

紀北分院外来診療医担当表

		月		火		水		木		金	
		AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
総合診療	2診		総合診療 廣西	糖尿外来 河井	総合診療(循環器) 羽野	総合診療 廣西 (第2週休診)	認知症センター 廣西 (第2週休診)	総合診療(認知症センター) 廣西 (第3週休診)		総合診療(循環器) 羽野	
	3診	糖尿外来 河井		呼吸器 柴木		泌尿器外来 藤井 (2-4週)	肝臓 佐藤 ※再診のみ				
	4診		皮膚科 神人(1-3-5週) 加山(2-4週)		脳神経内科 梶本		脳神経内科 梶本		皮膚科 酒井(1-3-5週) 中塚(2-4週)	認知症センター 梶本	
	新患5診	柴木		川口		応援医師			野田		寒川
	外科診					リウマチ・膠原病 [第2週]			櫻井 [第3週を除く]		
脳外 整形外科	6診	大岩	認知症センター 大岩		上野 [第1週]	大岩		大岩			大岩
	7診	整形外科 佐々木		整形外科 中川	足の専門外来 浅井	整形外科 前田		整形外科 佐々木		整形外科 中川	
	8診	整形外科 玉井		整形外科 原田		整形外科 玉井		整形外科 原田		整形外科 前田	
眼科	1診	石川		岡田	雑質 岩西 住岡 [第1週] [第2週] [第3週]	石川	子ども外来 石川	小門	石川	岡田	術前外来
	2診			黄斑外来 小門	吉田					小門	
小児科		青柳	樋口			青柳		青柳		青柳	
リハビリテーション科		石田		石田				石田		石田	
		南方			南方	南方		南方		南方	

診察受付 月曜日～金曜日：8時45分～ 再診で予約のある方は指定時間（予約表の記載時間）
*当院は原則すべての診療科で予約制となりますので、来院前に予約センターへ電話での予約をお願いします。
紀北分院 予約センター（受付時間 8時45分～15時）
TEL 0736-22-4600
紀北分院 認知症疾患医療センター 診療予約・介護相談（受付時間 9時～17時）
TEL 0736-26-3004

最新の情報は紀北分院ホームページにも記載しています。



2023年6月1日現在

「かるて師匠の健康高座」

紀子：先生、昔はがんって、本人に言わなかったんですか？
可流亭：なかなか重い話だね。病気について本人に説明することを「告知」というけど、昔はがんを本人に告げないことが多かったんだ。
紀子：本人がショックを受けるからかな。
可流亭：そうだね。本人にショックを与えないことが「やさしさ」だったのでしょ。
紀子：今は違うんですか？
可流亭：現代では基本的に本人にも告知します。がんの治療も進歩して、完治したり、治らないにしても一定の期間生きることができるようにも多くなったしね。それと、本人に病気を隠したとしても、周囲の扱いや、病気の進行具合などから、実際には患者さん本人が気がついてしまうので、結果嘘に嘘を重ねることで家族や医療者との信頼関係がうまくいかなくなってしまっただよ。
紀子：確かに自分が知らないことを、周りだけが知っているというのは気持ちのいい環境ではないわね。お互い言いたいことも言わずに隠しているのは良くない。
可流亭：とはいえ、病名だけを機械的に告げるのではなく、患者さんと医療者の信頼関係がないとだめだね。病名や重症度も、患者さんの体調や、精神状態を考慮しながら、少して

もショックが少なくなるよう、タイミングをみながら説明するんだよ。

紀子：がんになったからといって、すぐ死ぬわけではないですね。まだまだやりたいことがあれば、実現できるというな。
可流亭：実はそれがいちばん重要なことなんだ。患者さんが医療者から一方的に病名と治療法をあたえられるのではなく、患者さんが病気を理解したうえで、何をしたいか、どういう治療を受けたいか、何を現実したいかということ家族や医療者と共有できると、患者さんの孤独や苦しみも少しでも和らぐと思います。
紀子：なるほど。いろいろなことを患者さんを中心に、家族、医療者と一緒に考えるということですね。患者さんの人生を考える会議ですね。
可流亭：そう、実際に「人生会議」という言葉があって、受けたい治療や、過ごしたい生活について、医療者と一緒に考えていくプロセスが注目を浴びています。



分院長・内科教授 廣西昌也

【お知らせ】 紀北分院広報誌「あじさい」は春夏秋冬の年4回発行します。

和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 分院長 廣西昌也

〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺219

TEL0736-22-0066 (代) FAX0736-22-2579

2024年1月発行



紀北分院は、和歌山県内における総合診療育成の基幹病院として位置づけられ、地域医療を担う医師の育成を図っています。

総合診療能力を有する人材を育成するため、総合診療医師育成プログラムの「在宅医療提供」の部分である『訪問診療』を行っています。在宅医療では総合診療のスキルが求められ、様々な疾患を抱える患者の問題を、疾患だけでなく心理・社会的な側面からも包括的に診ることを目指しています。

紀北分院の訪問診療は、がん・心不全や慢性閉塞性呼吸器疾患・神経難病や認知症などの慢性疾患の進行により通院困難な患者の自宅を訪問し、診療を行っています。

地域の訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所と連携し、対象者が安心・安全な療養生活を送ることが出来るように支えています。



テレビ和歌山 特別番組「在宅医療 自分らしく生きるため」の取材を受けました。

また、人生の最終段階においても、住み慣れた自宅で出来るだけ過ごせるように支援しており、自宅での看取りも行っています。訪問範囲は、紀北分院を中心に車で20分圏内としています。状況によって相談可能です。

私たちは、患者さんとご家族が「その人らしい、暮らしを続けられる」お手伝いをさせていただきます。

【訪問診療に関するご相談・お問い合わせ】

地域医療連携室
0736-22-8250 (平日9時～17時)

【掲載内容】

- ・訪問診療はじめました
- ・着任のご挨拶
- ・認知症疾患医療センターからのご案内
- ・新任ドクターの紹介
- ・看護の日
- ・外来診療担当表
- ・かるて師匠の健康高座



■ 着任のごあいさつ



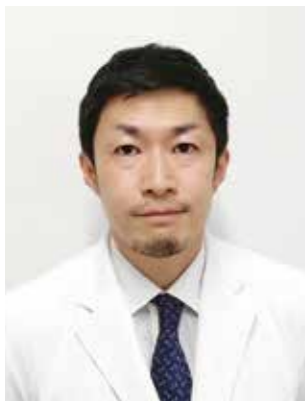
リハビリテーション科
助教 / 石田 和也
診察日: 月、火、木、金

令和5年(2023年)4月1日より紀北分院リハビリテーション科に赴任いたしました石田和也(いしだ かずや)と申します。

平成11年(1999年)に和歌山県立医科大学を卒業し和歌山県立医科大学附属病院を中心に、和歌山県内外の病院で疾病の積極的な治療が行われる急性期、急性期を経過し在宅復帰に向けたリハビリテーションを含めたさらなる医療が必要な回復期、一通りの治療が終わり各々の地域で生活していく生活期と全ての時期におけるリハビリテーション診療にあたってまいりました。

リハビリテーション医学は人々の「活動を育む医学」とされています。リハビリテーション診療の対象は骨関節疾患やその手術後、脳卒中、脊髄損傷によって生じた障害だけではなく、呼吸器、循環器などの内科的な疾病における障害や「食べる」障害といった様々な障害となります。

各診療科の医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカーなど様々な職種の方々と協同し治療にあたってまいります。どうぞよろしくお願いたします。



整形外科
助教 / 佐々木 貴英
診察日: 月、木

令和5年4月より整形外科に赴任させていただきました佐々木貴英(ささきたかひろ)と申します。

私は整形外科の中でも、特に足関節や足部を専門にしております。代表的な病気は、外反母趾変形や、足関節の軟骨が擦り減る変形性足関節症、足関節の捻挫やスポーツ障害などです。

当院への赴任前は、足の外科の領域で日本のトップランナーである奈良県立医科大学整形外科に1年間留学し研鑽を積んで参りました。足関節や足部を専門にしている整形外科医は全国的にも珍しいです。足の変形や痛みでお困りの方はお気軽にご相談ください。

また、ライフワークとして抗加齢医学の実践と普及に取り組んでおります。整形外科では、加齢により骨がもろくなる骨粗鬆症や筋肉が減少するサルコペニアの診療も積極的に行っていく所存です。

骨粗鬆症やサルコペニアは寝たきりの大きな要因の1つです。これらの疾患の治療の基本は運動です。あまり知られていませんが、運動には認知機能の改善やがんの発生率の低下など、様々な全身への効果が報告されています。なんと驚くべきことに脳の記憶を司る海馬という部分が運動により増大したという報告もあります。運動の数ある全身への若返り効果の1つが、骨や筋肉の増強だと認識しています。

紀北の地域住民の方々が、元気で若々しくいられるお手伝いをしたいと考えています。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

■ 認知症疾患センターからのご案内

認知症に関する訪問相談



認知症専門の看護師
が対応します。

認知症認定看護師
岸田 悦子

依頼者

ご家族、介護支援専門員、訪問看護師
訪問介護員、介護施設職員等

訪問範囲

伊都・橋本在住の方(要相談)

訪問日

月曜日・火曜日
※ 要予約(上記以外の曜日でも相談可)

相談内容例

- 病院を受診したいが、嫌がる、拒否が強い
- 毎日の生活がうまくいかない
- 怒りっぽく、家族も対応に困る
- どこに相談したらいいのかわからない等

カフェきんもくせいの開催

楽しくおしゃべりすることは
認知症予防にもなります



カフェきんもくせいとは?

- 当事者の交流や心の安定の場
 - ご家族どうしの情報交換や心の安定の場
 - 認知症予防のためのおしゃべりの場
 - 認知症についての学びの場(啓発)
- その他誰でも参加可能です。

- 日 時 / 毎月第1火曜日13:30~15:00
6/6、7/4、8/1、9/5
- 場 所 / 分院1階相談室(喫茶コーナー横)
申込み不要、途中退室OK

新任ドクター紹介



内科
学内助教
野田 幸治
診察日: 木



眼科
学内助教
吉田 太理
診察日: 火

よろしくお願いたします。

■ 看護の日

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日は「看護の日」と制定されました。当院でも、5月12日を含む1週間を看護週間と定め、イベントを行いました。



院内の専門チーム(NST・褥瘡、骨粗鬆症、糖尿病サポート、認知症サポート、訪問診療、感染対策)の活動内容や、看護相談、パンフレット、各種サンプルの配布を行いました。

看護相談では、血圧を測定しながら、持病や生活上の困り事などの相談を受け付けました。

来院者の多くが足を止め、パンフレットを手にするなど、関心の高さがうかがえました。